

区分・種別	県指定無形民俗文化財		
名称	まさき はな おど 正木の花とり踊り		
所在地	南宇和郡愛南町正木		
所有者		保存団体	正木花とり踊り保存会
指定年月日	平成12年4月18日		
解説	<p>旧暦10月18日の篠山権現の祭礼日に、正木権現堂前・歓喜光寺境内・旧庄屋蕨岡（わらびおか）家の庭の3か所で演じられる採物踊りである。</p> <p>はっきりとした起源は不明で、土佐との関係から戦国時代に始まったという説、村人が「花賀（はなが）」という悪者を花踊り戦術を使って討ち取り、その後、花賀の霊をなくさめたという説、山伏の修験道芸能が念仏踊りに変化したなどの説がある。</p> <p>踊りは、踊り手成人12人、鉦叩き2人、太鼓叩き少年2人により演じられる。踊り手は着物に獅子模様のついた野袴・鎧・篠山権現の紋章のある陣羽織をつけ、赤鉢巻・手甲・脚絆をし、素足に草履を履く。踊り場には約10m四方に注連縄を張り、その中央に長さ約4mの黒幟と紙幟を1本ずつ立てる。踊り手はその幟を中心にして円陣を組み、鉦打ちと太鼓は外側に位置し、住職が踊り場を水で清め「たいか、いかづちの如くにして、大いなる雲の如し、甘露の法を注いで煩惱の炎を滅却する」と3回繰り返し、踊りが始まる。</p> <p>最初に円形になった12人の踊り手の中から、2人が中央の幟に向かって踊り、これを「イレハ」という。その後、12人全員が長刀踊りを踊り、最後は踊り手が太刀6人、鎌6人に分かれ、向かい合って斬り合うように踊る。</p> <p>この踊りは、歌詞も踊りも古風で、柔と剛の交錯する優美さを感じられる。</p>		

